



## 第10回エレクトロヒートシンポジウム特集に寄せて

二川 佳央 一般社団法人日本エレクトロヒートセンター 特別会員

日本エレクトロヒートセンターでは、電気利用による加熱・冷却の技術向上と優れた特徴を、広く社会に向けて情報発信を行う普及広報活動強化の一環として、エレクトロヒートシンポジウムを企画・開催しており、2006年の第1回開催以来、好評を得て毎年開催となり、2015年11月19日の開催で第10回を迎えました。参加者は年々増加の一途を辿り、第10回エレクトロヒートシンポジウムでは700名を超え、ものづくりの未来を創造する大田区にある、大田区産業プラザPiO大展示ホール(1,600m<sup>2</sup>)を会場として、これまでの最大規模で大盛況に開催されました。これもひとえに皆様方のご支援とご指導の賜物と深く感謝しております。

第10回エレクトロヒートシンポジウムは、基調コンセプトを“産業の進化に貢献するエレクトロヒート”と掲げ、オープニングにあたり内山洋司会長から、産業の進化に欠かせないエレクトロヒート技術に対して、他業種連携のプラットフォーム機能と羅針盤機能を、エレクトロヒートセンターがより一層高めてゆく旨の開会挨拶を頂きました。基調講演には、佐々木直哉氏(内閣府プログラムディレクター)から、「新しいものづくりをめざして-革新的設計生産技術-」と題し、21世紀の社会に求められる、新しい価値設計に基づくものづくりについてご講演頂き、清水元規氏(株式会社デンソー)より「生産技術革新の事例」-PALAP: Patterned Prepreg Lay Up Process技術について、事例紹介を頂きました。また、中条光伸氏(日本エレクトロヒートセンター 前普及広報委員長)より、「エレクトロヒートによる生産プロセスの革新」のタイトルでエレクトロヒートの概要と優位性、好事例を紹介頂きました。いずれも熱気に満ちあふれる会場で、産業の進化を担うエレクトロヒート技術の大変興味深いお話を頂戴いたしました。

エレクトロヒート技術の最新動向や今後のトレンドを発表する技術発表では、誘導加熱技術、ヒートポンプ技術、赤外線加熱技術そして電化厨房技術の4分野の技術について10件の技術発表が行われ、活発な議論が行われました。会場入り口の受付側を展示エリアとして、電化厨房ゾーン、電気加熱ゾーン、ヒートポンプゾーン、大学・団体他ゾーンの4つのゾーンからなる展示会場が設営され、出展社39社に加えて6団体(大学を含む)に技術展示を頂きました。ヒートポンプ、抵抗加熱、誘導加熱、赤外線加熱、電化厨房などの各分野を代表する企業が集結し、実機の展示から動態展示を含めて、産業の進化に貢献するエレクトロヒートの現状と将来が一目でわかる素晴らしい展示となりました。尚、次回は2016年11月18日の開催を予定しています。

この度、当誌エレクトロヒートにおきまして、「第10回エレクトロヒートシンポジウム特集」と題して、産業の進化に貢献するエレクトロヒートシンポジウムの一端を紹介させて頂くこととなりました。エレクトロヒートシンポジウムの盛會が、更なるエレクトロヒート技術の発展に、大いに寄与するものであることを期待してやみません。

(にかわ よしお) 国士舘大学 教授 理工学部長